

十勝農業の今を知り 未来を読み解く

ナガイモ

「とかち太郎」に手応え

20年に選果場更新、自動化へ

十勝管内9JAで生産する「十勝川西長いも」。アメリカ、台湾、シンガポールにも輸出されるブランド農作物で、今年産から新品種「とかち太郎」の作付けが始まった。今年は9JAの264戸、550畝で栽培されており、収量増加が見込まれている。

「とかち太郎」は1999年から収量の高位安定化を目的に開発が進められた。ずんぐりとした「とっくり型」で、従来品種と比べて直径が1センチほど太い。

新品種には2力年で切り替える予定で、今年は秋掘りされる

ナガイモのうち5割ほどが「とかち太郎」に切り替わった。帯広市川西長いも生産組合が10月に行った作況調査では、JA帯広かわにし管内の10戸当たり収量を前年比1割増の3864キロと見込んでおり、関係者は収量アップの手応えをつかんでいる。

完全に切り替われば収量は2割増加する見通しで、JA帯広かわにしでは収量増や人手不足に対応するため、選果場を完全自動化する予定。今後、需要が高まっている外国への輸出拡大も期待されている。



作況調査でナガイモの状態を確認する帯広市川西長いも生産組合の組合員

枝豆

安全・安心への取り組み評価
学校給食にも広く提供

枝豆も十勝のブランド農作物の一つ。JA中札内村やJAめむろが生産に力を入れている。

今年は6月の開花期の天候が不安定で、生育にばらつきが出た。遅れて育った影響で、実が2つの莢（さや）も目立ち、収量は振るわなかった。

昨夏に国の地域団体商標に登録した「中札内村えだ豆」は、8月30日から収穫作業がスタート。JA中札内村の山本勝博組合長は「収量は落ちているが品質はよ

くできた」と話した。

JA中札内村は鮮度に徹底的にこだわって、収穫から3時間以内にゆでて塩漬けにし、瞬間冷凍する。これによって枝豆本来の色や食味を維持する。独自の安全基準を設けて、残留農薬の有無を厳しく検査する。こうした安全・安心の取り組みが評価され、中札内産枝豆は小売店にとどまらず、学校給食でも広く採用されている。



今年産の中札内枝豆の収穫作業。鮮度を保つため、すぐに運ばれ塩漬けにされた後に瞬間冷凍される

SULKY

1936年フランス・ブルターニュで、サルキー・シードドリル1号機が誕生しました。それから83年、サルキー社はカルチベーション作業機、高性能播種機、施肥ソリューション作業機のスペシャリストとして多くの機械を製造し販売実績を築き上げてきたフランスを代表する高品質農業機械メーカーです。

【主な取扱製品】

ブロードキャスター / DX・Xシリーズ
シードドリル/トラムラインSE CE
パワーハロー / カルチラインHR



QRコードからアクセスするとサルキー公式チャンネルより各機械の動画がご覧いただけます。



写真はシードドリルXeos

FIMAKS

フィマクス社は1975年創業。大規模な製造工場を持つトルコを代表する農業機械メーカーです。最新の組立ラインはISO規格認定された高品質システムを採用しており、機械の耐久性、安全性を向上させブランド価値を高めています。昨年の輸出実績は、世界104カ国におよびます。

【主な取扱製品】

飼料ミキサー / FMVシリーズ
コーンハーベスター / ビッグドラム



QRコードからアクセスするとフィマクス公式チャンネルより各機械の動画がご覧いただけます。



KNK
http://www.kokusainohki.com



輸入元：貿易商社

国際農機株式会社

〒006-0832 札幌市手稲区曙2条4丁目4-15
TEL.011-691-5931/FAX.011-682-5931

HANDLING MANUFACTURER (取り扱いメーカー)

